

平成 22 年度 第 2 回三条市食育推進及び農業振興審議会 会議録

- 1 日 時 平成 22 年 11 月 30 日 (火) 午後 1 時 20 分～2 時 50 分
- 2 会 場 市役所三条庁舎 2 階 大会議室南側
- 3 出席委員 姉齒暁 上村旭 皆川邦子 外山迪子 高野万里子 星野正義
阿部僚一 五十嵐大光 小林律子 小林武良
- 4 欠席委員 西光明 野崎文夫 長岡信治 佐藤幸治 樋口洋平
- 5 説明のための出席者
(事務局) 木村経済部長 高柳福祉保健部長 波多野健康づくり課長
吉野農林課長 板垣農林課課長補佐 田村食育推進室長
大泉技師 金子技師
- 6 議 題
(1) 第 2 次三条市食育推進計画(案)について
(2) その他
- 7 開 会 午後 1 時 20 分(委員の過半数出席により会議成立)

8 経過と質疑

福祉保健部長より、第 2 次三条市食育推進計画(案)について、国が定めている「食育基本法」に基づくとともに、「三条市食育の推進と農業の振興に関する条例」においても策定が定められていること、この計画がこれまでの取組の成果と、条例理念実現のための農業施策との協働、そしてスマートウェルネス構想を取り入れたものであることの説明と、委員の皆様から審議をお願いする旨のあいさつがあった。

(1) 第 2 次三条市食育推進計画(案)について

～資料 1 について事務局（大泉技師）説明～

質疑応答

【姉齒会長】三条市の特徴は食と農を結び付けようと取組んでいることであるが、高齢化が急速に進んでいる。最近では、アメリカでも街をダウンサイジングしようという、試みが行われている。三条が抱えている問題も同様に、交通手段が確保できていない

ため、中心部の高齢者が住んでいる場所で商店街等が衰退している。街には、鍛冶道場や、朝市、コンパクトストアがあるが、交通手段が少ない。せっかく取組を行っているのに、人の手に渡るところ、特に高齢者に困難なところがあるのではないかと感じた。若い人よりも高齢者は地場産食材に関わる場面が少ない。例えば、衰退した商店街で高齢者自身がレストランのようなお茶を飲む場所ができるとよいと感じた。食と農を考えたときに、末端までつなげられるような施策が必要。

【高柳部長】三条市では現在、三条小学校区で高齢化率 42.8% と非常に高い状態。そこで、今後はスマートウェルネスシティ構想を取り入れた施策を展開していく。この構想のキーポイントは高齢者となっている。ウェルネスとは、造語で健幸と書く。筑波大とタイアップしてやっていきたいと考えている。狭い意味、広い意味それぞれの健康施策を展開していく。

【木村部長】経済部ではまんなかプロジェクトとして中心市街地活性化に取り組んでいる。そこに住んでいる方が暮らしやすい環境づくりをしていくことを基盤として、にぎわいを作るという意味でマルシェを行っている。11月に実施したときは7000人の集客があった。一過性ではあるが、街の魅力作りをしていきたい。

【姉齒会長】そういったことが始まっているのであれば、非常に良いことであるし、先進的な取組になると思う。

【阿部委員】地域住民にとって何が一番よいかが大変重要。食育は総合的な施策の中での一つの要素であるので、そこから議論を進めていって将来構想が見えてくると思う。全体構想の中で食育や農業振興の問題は何かを検討するのが筋だと思うし、その前提のもとでこの会があるのであれば、技術的に保健所の役割として今の公衆衛生レベルでは細かい指摘しかできないと考えている。

【姉齒会長】そういった発言も重要なので、細かいところで現状から、どのような改善が必要か具体的な指摘が必要なので、ぜひご意見をいただきたい。

【阿部委員】第1次の食育推進計画の成果をふまえて、問題点を設定していると思う。朝食欠食率は減少しているということだが、朝食の内容に問題がある児童生徒が多いということ、中1女子の体重減少が突出しているが、どのように改善していくかが2次計画への課題となると思う。

【小林(武)委員】概要版の1ページの学校における地元農産物の利用率向上について話したい。小中学校の給食を米飯給食にしたが、その中で地元の米や野菜そして漬物を使用していると思う。60～70歳代の方で給食に漬物を納品している団体がいるが、髪の毛が入っていたら、始末書を書くよう言われたそうだ。あまり厳しくすると、協力する農家がいなくなってしまう。相手が反省していたら、厳しいことは言わないでもらいたい。

【田村室長】今の話について、ダイコンの会という方々がたい菜など漬物などを納めている。子どもたちは三条でとれたものと伝えると食べるし、おいしいと評判である。

集団給食は衛生管理が厳しいので、髪の毛1本入ったことに対して注意をしたと思う。農家の方はおおらかな方が多いので、厳しいと受け止めたのだろう。ただ、60～70歳代で担われている方は少なくなってきている。人材が少ないことで地産地消ができないことも考えられる。

【皆川委員】第1次食育推進計画があって、そこで目標値が定められていたが、これについては市政アンケートの結果を基本に使っていたと思う。これを評価して出した内容が2次に入っていると思うが、目標値がどうなったかが見えにくい。例えば朝食欠食率について20・30歳代は15%以下が目標だったと思うが、三条市はどのような数字になったのか。第1次計画と第2次計画の繋がりが見えると良いと思う。また、三条市では高校生の食生活の実態を調査しており、指標に高校生の朝食欠食率があがっているが、主食・主菜・副菜をそろえた食事をするものの割合にはあがっていないので、ぜひ取り入れてもらいたい。また、介入しているのは3年生と聞いたが、この調査はなぜ2年生なのか。

【田村室長】現状と課題のグラフ等を読み取ってもらうことで、目標値の成果を見てもらいたい。また、調査方法について16年度は市政アンケート、18・22年は市民満足度調査で多少アンケート調査の方法が異なっているが、大筋は同じなので使用している。高校生については、まだ取組が始まったばかりで指標には大きく出していない。今後検討していきたい。アンケート対象については前回調査においても実施しており、実態を把握するという意味で実施した。

【高野委員】高校生の問題は大切なので、進めてもらいたい。また、小林委員が言われたように、生産者は大変な思いをされて農業をされている。スーパーなどに持っていくのにもすごくお金がかかるといわれている。行政が関わることで、さらに地産地消が進むとよいと思う。

【外山委員】ショックだったのが、26、27ページのデータ。肥満や貧血や糖尿病など生活習慣病を予防するための取組を食推としても一年中取組んでいるが、年齢が上がるにつれて状況が悪くなっていた。市全体で共通意識をもって、みんなで努力しないと健康保険料などは増えていくばかりだと感じた。

【姉齒会長】以前まで貧困のイメージはやせている人が飢餓に喘いでいる状態だったが、今の貧困の象徴は肥満だという学者もいる。それは安いお金でカロリーの高いものを買って済ませる食事だからという意味。貧困は絶望感やコミュニティとのつながりが希薄になることによる自己の存在の希薄化と繋がっているとも考えられる。そうなる一人暮らしの人の食生活は希望が持てなくなったら気を使わなくなるだろう。高齢者も一人になって社会から隔離されると、コンビニなどで油っこい出来合いのものを購入し、脂質異常症が発症することもある。総合的に考えることが大切だと思う。

【小林(武)委員】概要3ページに「食に対する感謝の心を育む」という課題があがっているが、勉強も良いが感謝する心もしっかりと伝えてもらいたいと思う。野菜を作っ

ている人、料理を作ってくれる人に対する感謝を紙だけでなく、人と人とで伝えていけるとよい。例えば「ごちそうさま」の意味を知らせるなど行政からも働きかけてもらいたいと思う。

【波多野課長】計画案の 18 ページに学校給食残量調査の結果があるが、学校での指導や食育指導の結果がこの給食残量の減少に反映されているものと考えている。指摘があったことについて継続実施していきたい。

【田村室長】小学 5 年生については「ごちそうさま」の意味について話をしている。全学年とまではいかないが、全 5 年生に話しているので点が線になりつつある。先生に対しては指導者食育学習会にて伝えていくとともに、子どもが作る弁当の日の実施によっても感謝の心が育っていくと思う。継続して取組みたい。

【五十嵐委員】農協青年部でも、宴会ではできるだけ自分たちが持ち寄った食材を使うが、子供から「いただきます」と「ごちそうさま」の話を聞いた職員の提案から、乾杯の代わりに「いただきます」、万歳の代わりに「ごちそうさま」と言っている。点が面になってきていると感じている。

【姉齒会長】三条の学校給食は全国版の漫画に出るほど有名で、子どもは幸せだが、離れてしまった大人に対してどうするかが問題。街全体が食育を進めるのだという機運に持っていくと、面となって市全体を覆うことができると思う。

【小林(律)委員】孫が小学生だが、食べられないと「もったいないから食べて」といってくる。もったいないという心は子どもも持っていると感じている。また、三条の伝統食であるのっぺなども伝えてもらえるとよい。核家族化が進んで食べた記憶はあっても、作り方がわからない場合がある。

【田村室長】さんじょう情報広場というインターネットのサイトがあるが、この中に「食と農と緑の広場」があり、地産地消マップやレシピなどの情報が見れるので、活用いただきたい。また、伝統料理を継承することについては、計画案 44 ページにも記載があり、2 次計画でも実施していく。

【上村委員】先ほども皆川委員から話が出ていたが、基本的には幼少期からの食育が大事だと思うが、自分としては子どもから大人の間的高校生がブラックホールと感じている。また、糖代謝異常や肥満者についてだが、調べてみたら、どの市町村も年齢とともに上がっている。ただ、糖代謝異常の判定基準が低いため、異常者が多くなっている。全国的にも問題になっていることだが、現状をうけとめて、介入してどの様に変化するのを見していきたい。

【星野委員】先ほどの「食に対する感謝の心を育む」についてだが、子供たちは少しの声かけで変わると思う。三条の給食は有名で、子どもの健康状態がよくなってきていると聞いている。加えて、給食残量を減らすためにも働きかけをさらにしてもらえるとありがたい。例えば、給食食材の生産者名を担当が話したり、その野菜を食べた子どもが〇〇さんが作った野菜がおいしかったと家族に話せば、それを家庭でも使った

りと広がっていくと思う。ぜひお願いしたい。

【田村室長】給食だけでなく学校でのほかの取組も影響していると思うが、血液検査結果は改善に向かっていると感じている。地場産食材をつかった米飯給食を継続していきたい。

～議題 1 について意見をもとに事務局にて進めることです承～

(2) その他

なし

～事務局より連絡～

- ・今後の計画策定スケジュールと第 3 回審議会について
- ・しみん食育と農業のつどい案内

午後 2 時 50 分終了